

# ケロイド・肥厚性瘢痕の治療 (各論)

## ケロイドや肥厚性瘢痕の部位別の治療法について

ケロイド・肥厚性瘢痕の発生は、体質だけでなく部位による影響も大きいです。また適した治療法も異なってきますので、ここでは部位ごとに適した治療法を説明します。

## 治療方法について ※赤字は自費治療となっております。

ケロイドや肥厚性瘢痕は以下の治療を組み合わせで行っていきます。

□内服治療：お薬を飲んでいただきます。（リザベン、柴苓湯など）

□外用薬：お薬を塗ったり貼ったりしていただきます。

（エンピロン、エクラプスター、ステロイド軟膏、保湿剤）

□圧迫治療：シリコンジェルシートやスポンジなどで傷跡を圧迫します。

□注射治療：ステロイドやボトックスの注射を行います。

（ケナコルト注射、ボトックス注射）

□レーザー治療：傷跡の状態に合わせたレーザーを照射します。

ロングパルスNd:YAGレーザー：赤み、約1ヶ月おき

フラクショナルレーザー：凸凹があり、軽度の赤み～白、約2ヶ月おき

POTENZA：非常に炎症が強い場合、約2ヶ月おき

□手術治療：形成外科的な手術を行います。

□放射線治療：手術と組み合わせて行うもので、連携施設で行います。翌日より3日程度の連携施設への通院が必要です。

## 顔面

### □耳垂、耳輪のケロイド

この部位は手術と放射線がよく用いられます。耳垂は楔状切除、耳輪は核出術が行われます。手術だけだと再発率は3割、放射線を併用すると1割程度まで再発率は改善すると報告されています。他にはケナコルトやエクラプスターも使いますが、発生から半年以上たったケロイドに効果は少ないと報告されています。

### □顔面の肥厚性瘢痕

怪我ややけどのあと（唇を中心とした顔面中央部分）、美容外科術後（耳、鼻や唇まわり）などには、POTENZAが最も治療期間が短く効果的です。他にはケナコルトやエクラプスター、ボトックスなども併用します。

### □フェイスラインのケロイド

ニキビから発生する、男性に多いケロイドです。治療は保険でエクラプスターやケナコルトから開始します。手術と放射線も行われます（再発もあるため数年間の経過観察が必要です）。自費ではレーザーやボトックスも行われます。これらの治療は数年に渡り、ニキビの治療も並行する必要があります（2枚目参照）



きずときずあとのクリニック

形成外科・美容外科

次回のご予約は  
LINEから簡単に  
行なえます!



## 四肢、体幹

### □胸、肩、二の腕、フェイスラインのニキビケロイド

ケロイド体質の方におこる、胸、肩、二の腕のニキビ感染のあとのケロイドです。20～30代に多く見られます。ケロイドだけでなく、ニキビの治療も併用することが必要です。ニキビの治療は、普段から白ニキビを作らせない、ニキビができて感染させない、などが重要です。ディフェリンやエピデュオなどを使用していきます  
ケロイドの治療は、エクラプラスターとケナコルトから開始し、核出手術と放射線も行われることがあります。ここまでは保険で可能ですが治療には数年かかります。手術を行わない場合、ある程度落ち着いたところで色素レーザーやボトックスを開始することもあります、その場合は自費治療へと変更になります

### □ほくろ除去後の肥厚性瘢痕

四肢や体幹のほくろをレーザーや電気メスで除去すると肥厚性瘢痕になることがあります。それは数年で白く平らになってきます。  
まだ炎症が強く赤く盛り上がっている時の治療としてはエクラプラスターとケナコルトや、POTENZAやボトックスなども治療期間が短く効果的です。  
やや炎症が治った傷跡に対しては、ロングパルスNd:YAGレーザー＋フラクショナルレーザー、完全に白くなった成熟瘢痕に対してはフラクショナルレーザーや手術などの治療になります。自費治療になります。

### □美容外科術後のケロイド、肥厚性瘢痕

豊胸術後や、脂肪吸引後の傷跡、またレーザーや手術による皮膚へのダメージ後の傷跡がケロイドや肥厚性瘢痕になることがあります。治療はPOTENZAや色素レーザー、ボトックスなどが選択されます。また手術も行われることがあります、自費治療になります。

### □やけどや怪我のあとの肥厚性瘢痕

重症の火傷や、関節部分の治りの悪かった傷跡は肥厚性瘢痕になることがあります、保険治療でエクラプラスターやケナコルトから開始します、更なる治療を希望される場合はPOTENZAやボトックスがおすすめです。その場合自費治療になります

### □帝王切開や乳房再建後の手術瘢痕のケロイド、肥厚性瘢痕

ケロイドの治療は、エクラプラスターとケナコルトから開始します。治療には数年間かかりますが、もし早い治療を希望する場合フラクショナルレーザーや色素レーザー、ボトックスを行うすることもあります、その場合は自費治療へと変更になります

### □子供のケロイドや肥厚性瘢痕

一般的にエクラプラスターを中心に治療を行います、他にはステロイドの塗り薬、痒み止めやリザベンなどの内服、またガーメント（圧迫の衣服）やコルセット、サポーター、そしてシリコンジェルなどの圧迫療法も行います。可能な子は麻酔のテープを貼ってケナコルトを行うことがあります、また全身麻酔で手術を行うこともあります、基本は保険治療で行いますが治療には数年かかります。



きずときずあとのクリニック

形成外科・美容外科

次回のご予約は  
LINEから簡単に  
行なえます!

